

学童野球団「成城エンジェルス」の「紹介

代表 齋藤 充弘

記録映画『東京2020オリンピック』その冒頭、笑顔で野球を楽しむ子供たちの姿がある。明正小を本拠とする学童野球団「成城エンジェルス」の選手たちである。和気藹々、大人たちも一緒に、週末のひとときを野球に興じている。

前東京五輪から60年。スポーツを取り巻く価値観は大きく変わった。「休んではならぬ、



泥水をすすり這い上がった者だけが、栄光を手にするのだ！」高度経済成長期、厳しい指導者の元、猛練習を重ねた学童野球は多くの支持を集め、一世を風靡した。

しかし、世界情勢は激変、日本の成長モデルも、求められる人物像も変わった。「広い視野を持ち、自律し、協働する子に育ってほしい」。エンジェルズはそのような観点で運営されている。部員は瞬く間に増えて75名。成城自治会後援の下、成城警察署主催の防犯大会に参加、世田谷区では3大会連続の準優勝、さらに全国小学生テニスボール選手権大会にも東京都代表として出場し、成城から日本一になるという目標も、その視界にとらえている。

多様性の時代である。他のスポーツや習い事との両立を推奨し、中学受験も後押ししている。立場が人を育てると

いう信念の下、試合となれば多くの選手を出場させる。練習時間は強豪チームの半分ほどだが、決して甘いわけではない。この街の大人たちが力を合わせ、大量のメニューが同時並行で流れていく。一流の仕事をしている住民が多い街ならではのチームワークであろう。

最も大切にしていることは、日々の鍛錬から生み出される「努力と成果の相関関係」の体得である。孤高の自己研鑽と、仲間との切磋琢磨、そこからもたらされる勝利の味。これを知る人間は強い。この普遍の原理は徹底して刷り込んでいく。

エンジェルスの名前には、大谷選手に夢をもらったことへの感謝と、時間と愛情を惜しみなく注ぐこの街の博愛投資家ともいえるべき大人達への称賛が込められている。選手はいつでも入団可能、大人も大歓迎。お気軽にお問合せください。

体験練習の申込はこちらから

<https://seijangels.com/>